

# 令和2年度のコロナ禍における保健体育授業の取り組み

鮫島 将太郎<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>鹿児島県立鹿児島南高等学校

新型コロナウイルスに伴う感染症拡大防止策の一環として2020年3月より休講措置がとられ、新年度となった4月以降も学校の運動部活動ならびに保健体育授業も影響を受けることとなった。本報告では、鹿児島県立鹿児島南高等学校における今年度の保健体育授業の活動状況について述べる。

## ○現状の体育授業の活動状況について(4月～9月)

4月・5月は感染予防について、文科省や県が定めた授業時の留意点を参考にし、授業開始終了時の手や消毒や健康観察、3密を避けることに注意して授業を実施した。

具体的には、集合時の密集隊形を避け、両手間隔の隊列で健康観察や授業の進め方の説明を行うなどの工夫を行った。ラジオ体操や集団行動(体育基本動作時)も対面にならない様に注意しつつ、軽度の動作時は必ずマスク着用で行うなどの感染予防に努めた。6月以降のカリキュラム上では「球技」や「武道・ダンス」を実施する計画であったため、さらに感染予防に気を配り実施した。球技種目の「バ

ドミントン」「卓球」「テニス」は非接触型のスポーツであるためラケットの消毒などの対処で良かったが特に、接触プレイがある競技の「サッカー」はルールを工夫し、種目要素を含みつつ感染リスクが低いであろう「キックベースボール」に代えるなどに工夫した。最も感染リスクが高い武道については、「柔道」「剣道」共に相手と組み合うことは行わず、柔道では基本動作、受け身、一人打込などで対応した。また、2年次の武道においては(本来であれば約束稽古や乱取り稽古の実践中心の内容)審判法や競技の成り立ちを含めた座学に切り替えて授業を進め、試験においても学科で実施するなど対応した。

その他、学校行事として「体育祭」があり、感染防止に配慮した条件付き開催となった。内容としては入場行進を中止、プログラムの縮小や昼食をカットすることでの午前みの開催にするなどの規模縮小で実施した。心配された天候にも恵まれ、無事に開催することができた。

## ○新型コロナウイルス感染症による学校活動の状況(4月～9月)

日にち	感染対策	活動内容
4月	生徒間の距離2m以上確保 マスク着用 十分な換気(屋内の場合)	授業の心得(オリエンテーション) 集団行動の基本動作
5月	授業開始終了時の手の消毒 3密を避ける 生徒間の距離2m以上確保	ラジオ体操 スポーツテスト(一部) 体育理論
6月・7月	授業開始終了時の手の消毒 3密を避ける	武道・ダンス 球技(バドミントン・卓球・キックベースボール・テニス) ※非接触型の競技
9月 体育祭	午前みの時短(昼食なし) 行進なし 3年生の保護者2名まで等	疾走・リレー・フォークダンスなど (ソーシャルで実施可能な種目のみ)

○新型コロナウイルス感染症による学校活動の状況（9月～12月）

日にち	感染対策	活動内容
9月	集合隊形は生徒間の距離を一定確保 授業開始終了時の手の消毒 十分な換気（屋内の場合）	ラジオ体操評価 100m走の測定（短距離走） スポーツテスト（未実施分）
10月	授業開始終了時の手の消毒 十分な換気（屋内の場合）	体育理論 長距離走
11月	授業開始終了時の手の消毒 十分な換気（屋内の場合）	持久走大会 武道・ダンス 球技（バドミントン・卓球・バレーボール・ハンドボール）
12月	授業開始終了時の手の消毒 十分な換気（屋内の場合）	武道・ダンス 球技（バドミントン・卓球・バレーボール・ハンドボール）

○現状の体育授業の活動状況について（9月～12月）

2学期（9月）からは新型コロナウイルス感染症の発生件数も落ち着いてきたこともあり、本来の体育活動がスムーズに行うことができた。内容としても「陸上競技」であったため大きな影響はなかった。しかし、最低限の感染対策（手の消毒や換気）は徹底しなければならぬ状況であったため、生徒の感染症予防に対する意識を継続することの難しさを感じた。そして、11月以降の時期に武道種目も従来通りの組み合う内容も取り入れながら実施することができ、前期の遅れを取り戻すことができた。課題としては、全般的に授業への影響は大きくはなかったものの、冬が近づくにつれて屋内競技や保健授業において、寒さで換気がしにくい環境であり、教師側も生徒側も寒さに耐えながらの保健体育の授業であった点は今後の課題である。

体育行事の「持久走大会」では場所が桜島溶岩グラウンドコースをいうこともあり、桜島フェリーでの移動で男女学年別での分散移動など制約もあったが、例年通り男子10km・女子5kmの距離で無事に開催することができた。

新型コロナウイルス感染症により、学校教育も大きな影響を受けているなか、学校体育の意義は生徒たちにとっても非常に大きいため、引き続き感染対策を講じながら、本来あるべき活動の内容で授業を工夫し、行っていきたい。